

# 箏・三絃リサイタル 第十六回

主催 倭文会

後援 大阪府・大阪市・(財)大阪21世紀協会  
大阪府教育委員会・大阪市教育委員会  
平成十九年

とき 十月二十日(土) 午後二時五分開演

ところ 国立文楽劇場小ホール

大阪市中央区日本橋1丁目12-10 電話(06)6212-2531  
(地下鉄千日前線・近鉄線「日本橋駅」下車⑦号出口より徒歩一分)

# 「上方の風雅」

この音楽(地歌・箏曲)は十六世紀半ごろ上方(大阪・京都)で生まれた  
優美な叙情歌。十八世紀円熟盛大、十九世紀半ごろ完結している。  
江戸時代、日本列島は緑に覆われ、機械文明が開かれていないので  
町中は静寂感が漂い、閑静な佇まいであったと思われる。  
豊かな天然自然の変化する神秘的な美しさと、  
移ろう風情に心の機微を表現している。  
海外の影響を受けていない、日本独自の上方の感性が織りなした音楽である。

◆主 演 斉藤春子(箏・三絃)

◆賛助出演 倉橋義雄(尺八)、守山借子(箏)、平野麻子(胡弓)

◆お 話 荻田 清(梅花女子大学図書館情報センター長)

## ◆演目

### 都十二月

作者不詳

(十九世紀半ごろ?)

京都の年中行事を町中の  
風姿をまじえて詞っている  
海外ではブラームスのころ?

### 四季の曲

作 曲 八橋検校

(一六四一〜一六八五)

四季の風物を詞った箏うた  
海外ではバロック前期、カリシミア、リュリのころ

### 灘波獅子

作 曲 継橋検校

(生没不詳十八世紀前期ごろ)

大阪の繁栄をめでた曲 海外ではバッハのころ

### 根曳の松

作 詞 松本一翁

作 曲 三橋勾当

(生没不詳十八世紀末〜十九世紀前期大阪で活躍)

箏手付 八重崎検校(二七七六〜一八四八)  
お正月の子の日(ねのひ)に人々は郊外に出で  
小松を引き、千代を祝っている風景を歌詞にしたもの。

曲名は「子の日」を「根曳」に掛けている。

曲調はリズムミカル

海外ではベートーベン、ウェーバーのころ



入場料(全自由席) 3,000円

チケット取り扱いお問合せ 国立文楽劇場・倭文会(TEL・FAX06-6458-7030)

郵便振替:郵便局に備え付けの郵便振替用紙に必要事項をご記入の上、ご入金頂きました後、一週間ほどでお届けいたします。

■お申込期間:平成19年9月1日(土)〜10月10日(水)まで

■口座番号 00900-7-179711 加入者名 倭文会(しずのかい)